

表5 BSE病原体への実験的経口暴露又は自然暴露後の感染性に基づくウシの組織分類に関する予備推定の暫定的要約

感染性力価 <sup>1)</sup> (およその範囲) <sup>2)</sup>		実験的			自然発生(臨床的症)
		前臨床的症例(暴露後経過月数)		臨床的症例(暴露後経過月数)	
マウス	ウシ	(6~14月)	(18月)	(32月)	(36~40月)
高 ( $10^{3.0} \sim 10^{5.0}$ )	高 ( $10^{5.7} \sim 10^{7.7}$ )				脳、せき髄、 ?網膜(データ未発表)
中 ( $10^{1.5} \sim 10^{3.0}$ )	中 ( $10^{3.3} \sim 10^{5.6}$ )	回腸遠位部		脳	
低 ( $\leq 10^{1.5}$ )	低 ( $\leq 10^{3.2}$ )	回腸遠位部	回腸遠位部	脳、せき髄、 背根神経節	脳、せき髄、背根神経節、三叉神 経節、回腸遠位部、骨髄(38月)

1) ウシBSE症例の感染性範囲は、ヒツジのスクレイピー症例に比べて非対称的であったため、ここで使用した分類は暫定的で任意なものである。この分類は、SSC報告書の表1及び付属文書のグループ又は分類とは一致しない。

2) 太字で示した表の値は、ウシ生物学的検定に基づく。

参考文献) Scientific Steering Committee. Opinion on TSE Infectivity Distribution in ruminant Tissues (State of Knowledge, December 2001), Adopted by the Scientific Steering Committee at its meeting of 10-11 January 2001.

表6 BSE症例1頭の総感染力

組織	感染密度	ウシの体重537kgあたりの重さ(kg)	BSE症例1頭についてのID <sub>50</sub>	ウシ1頭についての総感染負荷の割合	累積負荷
脳	10	0.5	5,000	64.1%	64.10%
せき髄	10	0.2	2,000	25.6%	89.70%
三叉神経節	10	0.02	200	2.6%	92.30%
背根神経節	10	0.03	300	3.8%	96.10%
回腸	0.32	0.8	260	3.3%	99.40%
脾臓*	0.03	0.8	26	0.3%	99.70%
眼	0.03	0.1	3	0.04%	99.74%

\* あるデータによれば、スクレイピーからのBSEの推定は有効でないため、脾臓は感染していない可能性もある。

参考文献) Scientific Steering Committee. Opinion on the Scientific Steering Committee on the human exposure risk (HER) via food with respect to BSE, Adopted on 10 December 1999

(表6)

(表5)